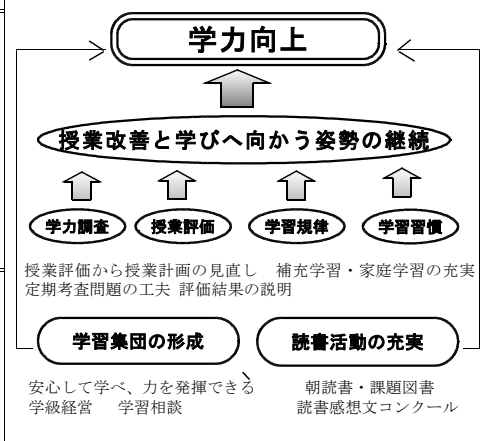


東京都教育委員会教育目標基本方針	学校教育目標	学習・学力の点からみた学校や地域の実態
子供たちが、知性、感性、道徳心や体力を育み、人間性豊かに成長することを願う。	人間尊重の教育を基調にして、思いやりの心を持ち、社会の基本的ルールを身に付け、すすんで社会に貢献しようとする精神の涵養に努める。 また、確かな学力の向上を図り、子供たちの個性を伸ばす教育を重視する。 ・自立した人 ・誠実な人 ・貢献する人	敷地は広く、四季折々の花と緑に囲まれた恵まれた学習環境にある。 生徒は素直で明るく活発である。学習態度は落ち着いており、授業に真剣に取り組んでいる。 しかし、基礎・基本の定着が十分でない生徒も少なからずみられる。全ての生徒に基礎学力を定着させ、補充と発展のための学習を計画していく必要がある。 保護者・地域の学校への関心は、極めて高い。
練馬区教育委員会教育目標		
教育基本法の精神にのっとり、人間尊重の精神を基調とし、学校・家庭・地域社会との緊密な連携のもとに、心身ともに健康で知性と感性に富み、人間性豊かな子供の育成を図る。		

学校経営方針
定期的・継続的・組織的な指導 鍛える ～これまでの経験値を超えた学校家庭地域連携～ 1 学習意欲の向上 2 豊かな心の育成 3 伸ばし鍛える教育の推進 4 学校力の向上

各教科の指導の重点	本校における「確かな学力」	「特別の教科 道徳」の指導の重点
<ul style="list-style-type: none"> 各教科では、基礎的・基本的内容を身に付けさせるとともに、個に応じた指導を取り入れ、補充学習と発展学習の充実を図る。 教育機器を活用した授業、ICT、タブレットを活用した指導、少人数指導による授業においては教材の開発、指導法の改善等に努める。 全教員が研究授業を行い、その結果を生かし、授業改善を推し進める中で、生徒の学習意欲を喚起することで、達成感のある授業を構築していく。 各教科では、到達目標を明確にし、指導と評価の一体化した学習活動に努める。 近隣の小学校と協力し、小中一貫教育を進めていく。小学校の授業形態や指導内容等を把握し、スムーズに中学校の授業に移行できるよう指導法を工夫する。 	<p>本校では学習指導要領に示された基礎・基本を重視し、次の方法でその定着を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 確かな学力を身に付けることを目指し、学力調査等の結果を分析し、それを授業改善に役立てる。 生徒・保護者による授業評価を行い、それを授業改善に役立てる。 補充教室の開設を行い、基礎学力の定着を図る。 学習活動の基盤となる読書活動の充実のために継続的な取組を推進していく。 学習規律・学習習慣を身に付けさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒との人間的な触れ合いを重視し、基本的な生活習慣の確立を図る。また、生徒同士の望ましい人間関係づくりを支援する。 「特別の教科 道徳」の時間では、生徒の実態を把握し、年間指導計画に従い、人間としての生き方や人間関係の形成やコミュニケーションの在り方等、道徳的習慣や道徳的行為について指導し、生徒の道徳性・社会性を高める。 道徳授業地区公開講座に積極的に取り組み、教師の指導力向上とともに家庭や地域の道徳力向上に貢献する。また、読書活動、各教科と関連付けて体験活動等を重視し、社会性や人間性の育成を図る。

総合的な学習の時間の重点
<ul style="list-style-type: none"> 自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、よりよく問題を解決する資質や能力を育てる。 自分の考えをまとめ、相手に伝わるように筋道立てて表現する力を育てる。 問題の解決や探究活動に主体的に取り組む態度を育てる。 他の人の生き方に学び、自己の生き方を追求させる。 少人数による問題解決的な学習、体験的な学習を積極的に取り入れる。指導は学年体制で行う。



特別活動の指導の重点
<ul style="list-style-type: none"> 生徒と教師の共通体験を通して、一人一人の生徒理解に努め、健全な規範意識と社会性を育てる。 生徒会活動や部活動に積極的に取り組み、生徒の健全育成に努める。 ボランティア活動の機会を設定し、奉仕の心を育て、他を思いやることのできる生徒を育てる。 学校行事、学級活動などあらゆる機会を捉えて、自国の文化・伝統を理解したり、地域社会の一員としての自覚をもたせたりするとともに、国際社会に貢献できる基礎的資質を養う。

キャリア教育の指導の重点
<ul style="list-style-type: none"> 人間としての生き方の指導を通して、生徒が自らの進路について深く考え、進路選択と進路決定が行える力を育てる。 生徒の自己実現に対して積極的な指導と援助を行うために保護者面談・三者面談等を活用し、保護者との連携を強める。 生徒の体験活動を重視する。職業調べなどを計画的に実施し、「仕事と人生」について考えさせ、3年間を通じたキャリア教育を実践していく。 身近な「卒業生の体験談」をもとに、取り組み方を知り、進路への興味関心を高める。

生活指導の指導の重点
<ul style="list-style-type: none"> 予測される生徒指導上の課題に対し、あらかじめ生徒へ意識付けを行うとともに、問題の早期発見・早期対応に努める。 不登校傾向の生徒については家庭との連絡を密にするとともに、SCや関係諸機関と連携し、不登校の改善に努める。 健康に関する指導は学校保健委員会を計画的に実施する。 一人一人の生徒が安心して通学ができ、生き生きとした学校生活を送ることができるよう基本的な生活習慣を身に付けさせる。 近隣小学校と情報交換をし、新入生の指導に生かしていく。

本校の授業改善に向けた視点				
指導内容・指導方法の工夫	教育課程編成上の工夫	校内における研究や研修の工夫	評価活動の工夫	家庭や地域社会との連携の工夫
<ul style="list-style-type: none"> 各学力調査等の結果と生徒の授業評価を分析し、授業改善を図るための指導方法の改善プランを各教科で立て、実践する。 昨年度の成果と課題を分析し、そこに新たな工夫を加えた取組を実践する。 ICT、タブレットパソコンの有効活用を実践する。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習活動の基盤となる読書活動を推進する。 各教科の指導計画に指導の重点を加え、学習指導要領に準じた評価を確立する。 全学年で数学、英語の習熟度別指導を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 「小中一貫教育を推進し、9年間にわたる教育の充実を図る」というテーマで校内研修に取り組み、小学校との連携を深める。 校務PCの活用法について校内研修を設定し、新しいシステムに対応できるようにする。 校内研究授業やICT活用研修を行い、授業力向上に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 目標に準拠した評価の妥当性・信頼性を高める。 評価を生かした授業を実施するために生徒・保護者への説明責任を果たす。 上記の内容を年度当初の保護者会で説明する。 指導と評価の一体化を目指した研修等の取組を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 近隣の小学校との連携を深める。互いの授業を見合うなど、交流する機会を増やしていく。 学校評議員による授業評価を実施する。学校公開日の保護者アンケートを実施する。これら外部評価を授業改善、学校経営に生かしていく。 教育課程保護者説明会の充実を図る。 年4回学校公開日を設ける。